白
藤
下編七
へ13
1178
14

豊国画
上編七
へ13
1178
13

へ13
1178
13

特
へ13
1178
13

古めかしい種物語

豊国画

七編上冊

藤岡屋版

銭湯ハ並ぶ髪結床ハ隣家ハ垢のもう序已櫛の齒と埋るも多かるべく天麩羅鄽の傍ハ荷居ゝ夜蕎麥賣ハ彼揚鍋の湯氣を借て此振筑を聞かるべし〜それゆゑ僅異少くも此書ゆゑ〜ぬひも一陽齋が筆の妙手ゆ依て流行稗史の數ゆゑ〜と尊きけり當年ハ格別丹誠を盡し人物ゆゑ更ゆゑ屋体圖より衣服の模様或景色ハ至迄至極微細ゝ画つれば是を前文のと比そるゆ梵加減よりも新造風呂の板間を編木ゞく〜洗ふゆゑ近頃用る藤竹屑で磨き又揚物屋が濱川鱓鉈切蝦等鮮き東西の限をを榧の油で調ゝたるてんぷら〜といふべく弥看官の御意ゆ的ひ益愛顧〜たまひふべそれハ透引く夜鼠の下品可漏子剃初心の未熟髪結ゝる劣し僅ゞ批作さへ鄰ハ江湖ハ唐ゝ事もあるべし

嘉永壬子正月

柳下亭種員記

鳥山秋作照忠
菊地家重代の
軍器
青の
龍の
兜

若菜姫

秋

此画ハ
夢物語と
合せて
梁ベー

村陽
真平

渦丸が乳母
碧丸郎
吉物語
嶋の山落城
小に島典膳一子
渦丸遺言
連れ走り

志つゝぬひ繻

五拾四編ヨリ柳亭種彦作
六十編マテ一恵齋芳幾重

兩面織花田物語

初編ヨリ同
五編迄
近刻同

作
重

假名淺八大仇

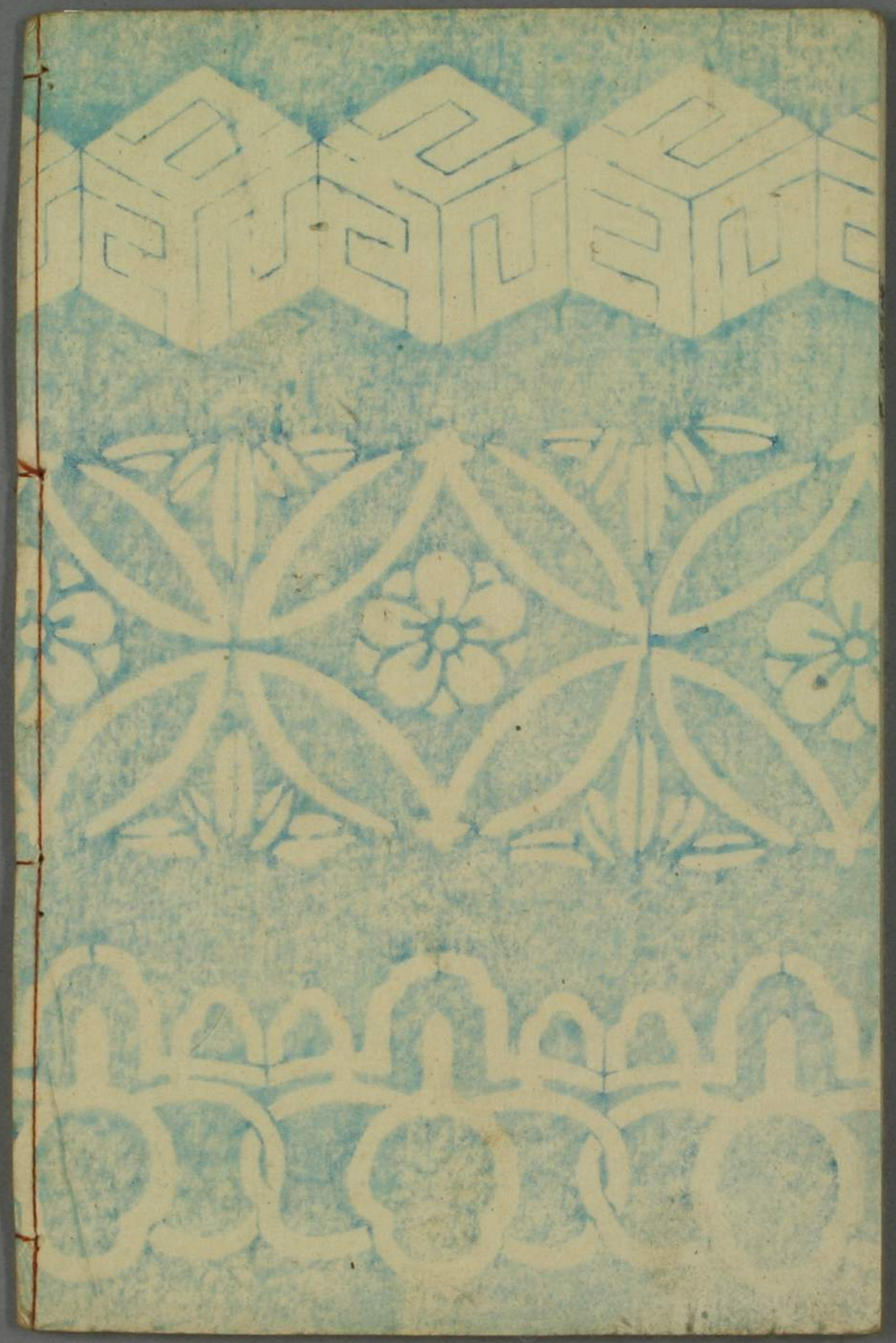
三十編マテ假名垣魯文録
三十五編マテ朝霞樓芳幾重

古今俳優似顔大入全

故豐國公羽筆
天錦堂白三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續恵齋芳幾圖



白
薩
摩
ノ
介

宿
編
松泉書樓

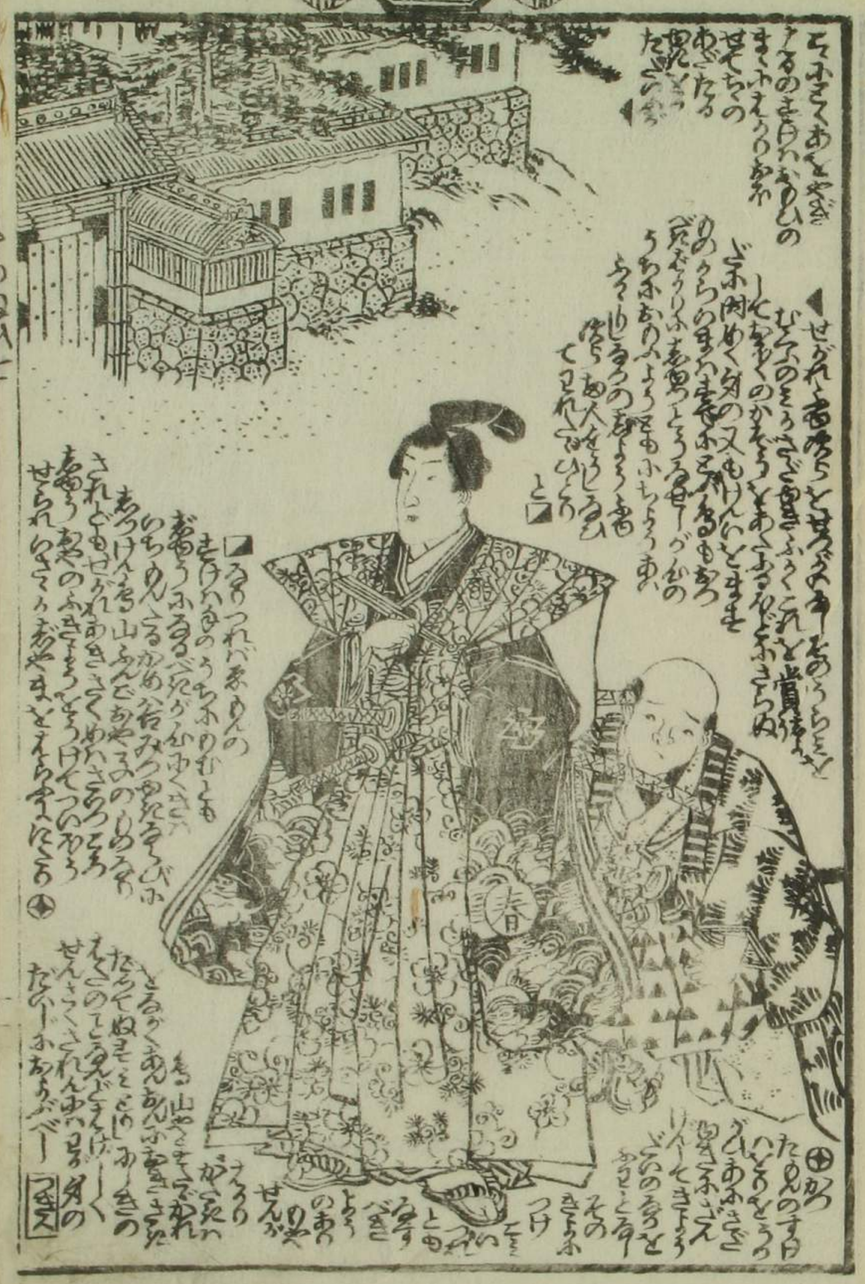
七編下

へ 13
1178
14

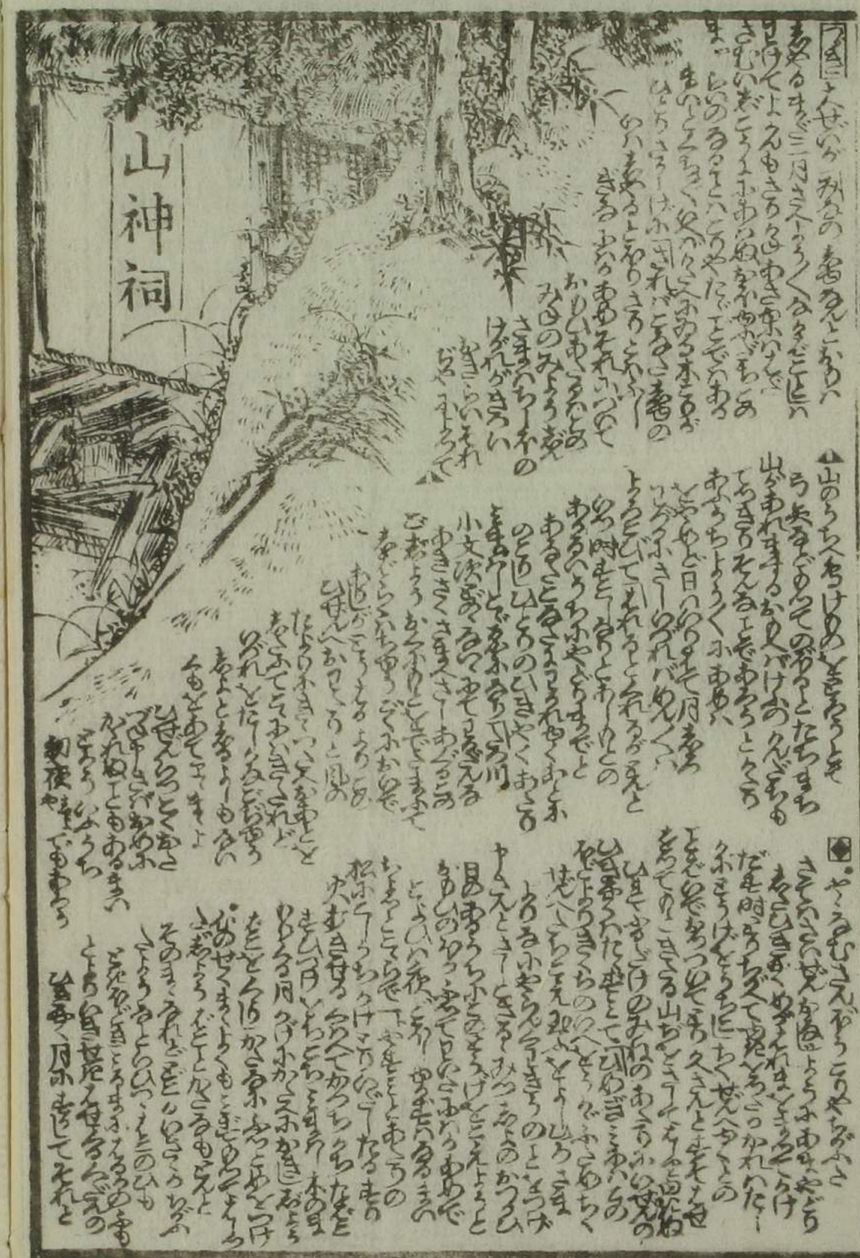
へ13
1178
14

第七編 下乃巻

柳亭種員
著
豊國画 畫嘉
栄 孟子 孟孫
義 春 春 春



北面の豊後助
貞行を
諫る言葉
菊地修理
大夫秀行
末期の体
十余年
雪岡
大夫


山神祠

山神祠

苦

種員作豐國画

名響の義獄ハ　柿木金輔

名善の孝女ハ　桂三五郎市

浪華黄金鯱

朝霞楼芳幾画

三編讀切

瀬川如皐　山々亭有人　恵齋芳幾　合

梅素玄魚　松湖交來　假名垣魯文　作

河竹其水

一對男の縁ふ因て戯作劇場を一様ふ竹枝ちらぬ七軒人が一回五葉と持きりの合作全備の三編冊

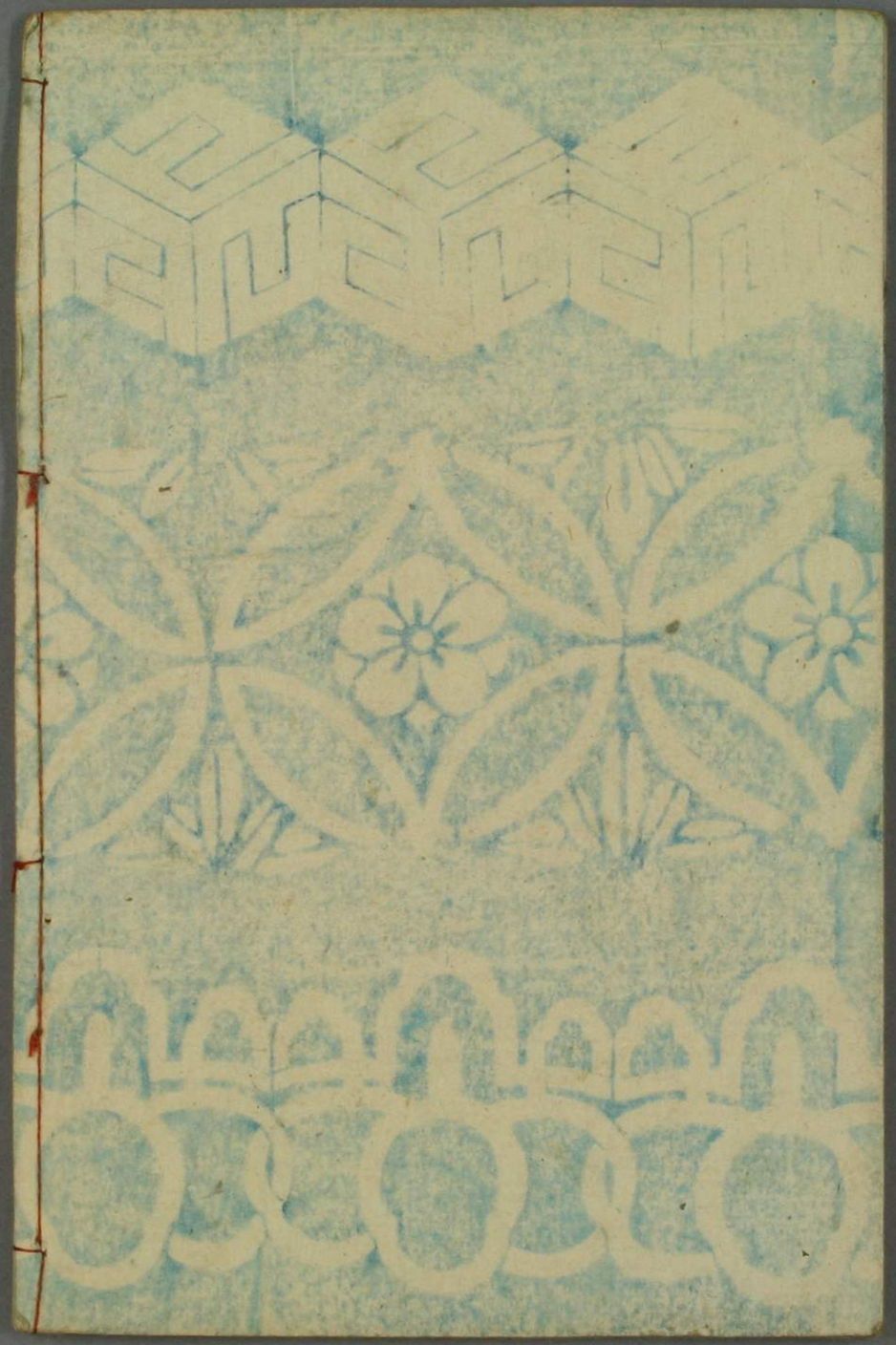
初編　初丁より五十尾迄　其水作同十六丁より十丁迄　有人作同十五丁迄　交來作同十六丁より十丁迄　如皐作

二編　初丁より五十尾迄　芳幾作同十三丁より十丁迄　其水作同十六丁より十丁迄　如皐作同十六丁より十丁迄　魯文作同十六丁より十丁迄　有人作

三編　初丁より五十尾迄　如皐作同十六丁より十丁迄　魯文作同十六丁より十丁迄　其水作同十六丁より十丁迄　如皐作同十六丁より十丁迄　魯文作同十六丁より十丁迄　其水作同十六丁より十丁迄　有人作

定ぬ豆ふ筆力をはくし浮富藏板の志らぬ仁同様御高評と希ふ

江戸深川佐賀町

廣岡孫幸助梓

地武草紙四座